図書だより

<第41号>
平成13年12月10日
呉工業高等専門学校
図書委員会

「ハワイ ハレアカラ火山」　撮影：呉高専写真部員

展望台から見下ろす広大な火口は，自然の偉大さを感じさせます。

目　　次

【巻頭文】
無用の用 …… 校長　福　永　秀　春 … 2
【読書感想文】
『パールハーバー　運命の日』(源田実著) を読んで …… A 1　上　田　理　絵 … 3
『光抱く友よ』(高樹のぶ子著) を読んで …… C 2　井　丸　智　恵 … 3
『Go』(金城一紀著) を読んで …… C 2　坂　本　裕　樹 … 4
『ボランティア』(金子郁容著) を読んで …… M 3　石　丸　哲　也 … 5
【随　想】
図書について …… C 4　前　川　仁　美 … 6
私は馬鹿である …… A 5　石　川　晋　次 … 6
呉高専と都城高専の図書館 …… 専攻科　建設工学 1　村　上　　幸 … 7
【留学生が紹介する外国の図書館】
カンボジアの図書館 …… C 3　ロン チャンター … 7
【新任教職員の随想】
「読書のすすめ」…… 機械工学科　上　寺　哲　也 … 8
「読書のすすめ」…… 環境都市工学科　黒　川　岳　司 … 8
【在外研究員報告】
外国の図書館紹介 …… 環境都市工学科　市　坪　　誠 … 9
【新着図書10選】 …… 10～11
【お知らせ】
1　平成12年度　図書館利用状況 …… 12
2　冬季休業中の長期貸出について …… 12
3　図書館ホームページについて …… 12
【編集後記】 …… 図書館長補　宇　根　俊　範 … 12

巻頭文

無用の用

校長
福永秀春

これは「荘子」にあることばである。のっけから哲学めいた言葉でいぶかしがるかもしれないが，要は現在の学生諸君に図書館に行って調べものをすることが，パソコン検索よりも殊の外，役立つということを知ってもらうための題目である。

私は学校の図書館や街なかの図書館によく行く。近ごろ，市中の図書館の利用者は若者から老人まであまり変わりがないように思うが，学校の図書館は利用する学生が少なくなっているのをひしひしと感じる。自習コーナーはまだしも，とくに参考図書コーナーとか学術雑誌コーナーは学生の利用者が少ない。

図書館は情報の宝庫であり，いつまでも自分の師であるという気持がある。私が図書館に行く目的は，調べものをして資料を収集することが大半である。例えば，我国の自動車生産台数の国際的比較は歴年ごとにどのような変化を辿ったか，果してそれはダイカストの生産高とどのような関係にあるか，などである。それほど大げさでなくても，レポートを書くための史実とか，どうも自分ではあいまいに憶えていた術語や事象があって，それをクリヤーするために行くというものである。

最近はデータベースがあらゆる分野で発達してきたために，また辞典や百科辞典など知識がCD－ROMなどに収められてきたために，現在の学生諸君はパソコン上で，これらを利用していろいろな目的を達することが多いようである。校内LANや電話通信回線も発達してきたので便利であり，実際に天気や旅行情報，スポーツ試合の結果情報など生きている情報を的確に掴えられるので，データベースやコンテンツの利用者は拡大している。とくに検索手法に習熟すると，目的の事象をピンポイントでストレートに入手することができる。いわば，いつでも好きなときに，どこにいても，必要な情報が得られるから，非常に合目的的である。

ところが図書館に行くとそうはいかない。しかし，効用があるのを理解してほしい。それはまず，開館時間内に図書館のあるところまで足を運ばなくてはならない。ちょっとした手続きをすませて閲覧室に入ると，近辺に並べてある新着本の棚や新聞・雑誌のコーナーに軽く立寄りながら，目的の事象が載っていそうな棚をさがして進む。そして本の題目を選んで，目次を開きザーッと眺め，目的の章，節，項へ入っていく。ヒットしなければ本の題目を変えて，あちこちと模索は続く。時間がかかる。ようやく目的を達し満足した気持で出口に向うのだが，ここでパソコン検索と違うことが起っている。ストレートに目標の事象にたどりつかないので，閲覧入口からすでに多方面の情報が目から吸収されているのである。時には別の関心事に興味が移ることさえおこるのである。つまり，図書館で見聞する事象が広いので，新たに目からうろこが落ちる情報を得てしまうのである。憧れていた絵画に出会ったり，格好の新刊書，趣味とするスポーツの解説書，あるいは永らく探し求めていた記事であったりする。

パソコンによるデータベースでは，情報はヒエラルキー構造（ピラミッド状の秩序組織）をとっているから，幹から枝を選択し，枝から小枝を選択しそして枝葉へたどる過程をとり，全体を見わたすことはできない。検索にたよってしまえば脇見をせずピンポイントでたどりつく。図書館へ行くと森を見て木から幹を見て，幹から枝葉まで全体を順次視覚に訴えることができ，その間に当日の目的でないが日頃いだいていた関心事を解決してくれる効用が伴う。一見無用であり，無駄であるようだが，役に立つ。

図書館は，総合情報の宝庫である。それはパソコン情報がデジタル的であるのに対し，アナログ的な曖昧さと拡がりをもつ世界である。ぜひ，図書館で時間を費やすことをすすめる。

読書感想文

パールハーバー

源田　実 著

建築学科１年

上　田　理　絵

私は戦争の話が好きではない。生まれた国が敵どうしであったがために，同年代の若者たちが戦っていた。民族が違うために差別された人々がいた。多くの罪のない人が次々と殺されていった。そんな事が当り前のように行われていた時代が嫌で，目をそらしてきていた。

この本は題名のとおり真珠湾攻撃の話である。それなのになぜ読もうと思ったのか。それは，今夏公開の映画，パールハーバーがきっかけだった。どうして日本は宣戦布告もしないうちに奇襲という方法をとったのか知りたかった。そう思っていた矢先，書店でこの本と出合った。この本には，なぜ日本がそうしたのかという問いに対する答えが書かれていたのだった。

著者，源田実氏は実際に真珠湾攻撃の作戦を考えた人のうちの一人だった。話は源田氏からの視線で真珠湾攻撃の作戦を考えるところから作戦終了までが書かれている。日米関係が悪化していくなか，必死に関係を維持しようと試みた人たちもいた。しかし，結果として「開戦」という道を日本は選んでしまった。当時の日本はワシントン会議で戦艦のトン数の割合がアメリカを10とすると，日本は６と決められていたため数からみても勝算がなかった。それに加え，今でもそうだが日本には資源が少ない。そのために長距離，長時間の海上移動は不可能だった。

ここまで不利な条件が揃っているのだ，何かよほど思い切ったことを考えなければならない。その何かを提案したのが連合艦隊司令長官，山本五十六氏だった。目標はハワイ方面にある米国主力戦艦。いかにして衝撃を与えるかが問題となった。

「奇襲」という案があった。その案をいかにして成功させるか依頼されたのが源田氏だった。

奇襲とするためには相手の意表をつく必要がある。そのためにはこれまで当然とされてきたことを見直し，別の視線から考えることが必要だった。20世紀前半，主戦力は戦艦だった。しかし様々な技術が向上し昭和16年には戦力面から見ても，戦闘機が優位だったと思われるが，どこの国も戦艦中心の戦法を変えようとしなかった。そこで戦闘機を用い相手側の戦艦に衝撃を与えようと考えた。物理的な衝撃も大きいだろうが，戦艦を失うという心理的な衝撃も大きいだろうと思ったのだ。

この他にも様々な改良の結果，作戦は成功に終わった。しかしこの結果は源田氏一人で納めたわけではない。多くの人の努力と助言があり，また源田氏もそのことを認め素直に受け入れたからではないだろうか。今私にとって忘れかけていた大切なこと，だった。

戦争はやはり許せない，嫌だということに変わりはない。ただ目をそむけていてはいけないとも思った。作戦自体はアメリカ側から見れば「宣戦布告前の卑怯な奇襲攻撃」ということに過ぎない。それでも多くの人が関わり何かをするということは時に大きな力となると伝えてくれた事件だと私は考える。

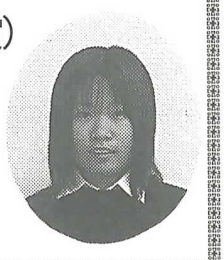
可能であるならばその力が平和のために使われることを祈り，そう尽したい。

光抱く友よ（第90回芥川賞）

高樹のぶ子 著

環境都市工学科２年

井　丸　智　恵



この「光抱く友よ」の主人公相馬涼子は，自分に自信がなくて，なんとなく周りに流されてしまって言いたいことをはっきり言えないような高校生の女の子です。そんな涼子の気持ちが私にもよくわかります。私は，この物語の中に自分がいるなと思いました。そんな涼子に影響を与えたのは，同じクラスの松尾勝美でした。松尾は，あまり学校には来ておらず，特に親しい友人がいるわけでもなく，高校生とは思えない独特の雰囲気を持っている女の子です。なんの関わりもなかった二人

が深く付き合うことになるきっかけは，涼子が恋ではないかと感じていた担任三島のことでした。いつも優しい三島に松尾が怒鳴られているのを，偶然聞いてしまった涼子が松尾に近づきます。そして松尾と話し事情を知った涼子は，相手が誰であれ体ごとぶつかっていけそうな勇気が湧いて，三島への思いが失望と憤慨に形を変えたのです。それから涼子は，不思議な魅力のある松尾と，うわべだけでつながるのではない，友達として共に時間を過ごすことになります。涼子は，だんだんと松尾のおかれている家庭環境がわかってきます。松尾の母親はアルコール中毒で，松尾が一人で面倒を見ています。私は，こんな状況に一度もおかれたことがないけれど，とてもたいへんなことだと思いました。自分自身がしっかりしていないと，人の面倒まで見れないと思います。涼子は，松尾の母親の様子を見たとき，松尾とはげしく口論する状態にたえられず，逃げてしまいました。時に暴力をふるう母親だったら，私は絶対に絶えられないし，すぐに逃げてしまうと思います。松尾は，そんな母親としっかりと向きあっていて，すごいと思いました。ある日涼子は，松尾が好きな星の観測をするために松尾を家に呼んだのですが，涼子が期待していたほど松尾は喜んでくれませんでした。そして思わず「うちは，なんで松尾さんみたいな皆がよく言わんひとに近づいたんか，自分でもわからん。ただ松尾さんは，これまでの17年間，うちの心がきちんと片づいとったところを引っくり返したんよ。何が上等で何が下らないか，何が正しくて何が間違っているか，わからんようになってしまった…。」と言ってしまったのです。私はここの部分がとても印象に残っています。涼子が言っている自分の心が引っくり返されるほどの友達というのは，なかなか出会えないと思います。松尾と関わることによって違う世界とふれあった涼子は，以前の皆に流されるような涼子とは，違う考えを持つようになったと思います。私は，この中にいると思った自分が，この本を読み終わった時に成長したということを感じました。この物語で，涼子から勇気をもらった気がします。友達のことでいろいろ悩む事も多いけれど，たくさんの人とふれあって，出会えてよかったなと思える友達をたくさん作っていきたいと思いました。

Go（第123回直木賞）

金城 一紀 著

環境都市工学科２年
坂　本　裕　樹

この本は，映画を見に行った時，たまたま映画の宣伝紙に「Go」映画化決定と書いてある紙を見た。そこには，話のストーリーが書いてあった。内容は，生まれも育ちも日本だが，朝鮮籍を持ついわゆる「在日朝鮮人」の話しだったので読もうと思いました。

この本の内容は，小学校中学校と『朝鮮学校』に通っていた主人公が高校は一般の高校へ通いそこで起こる友達との出来事，女との出会いそして悲劇がえがかれていた。

主人公は入学三日目にして生徒中に「在日朝鮮人」であることがバレ，ケンカを売ってくる者が現われてきた。そして主人公にできた友人は学校で始めてケンカした加藤の一人だった。主人公は元プロボクサーの親父に幼い頃からボクシングを習い，ケンカにはめっぽう強かったのだ。ある日，加藤の誕生パーティーに呼ばれて行った主人公はそこで，一人の女性と出会った。そして彼と彼女はその後，ほぼ毎日のように電話するようになり，いろいろな事を話したが，ただ一つ『在日朝鮮人』という事を明かせずにいた。彼はその事をいうことにより彼女との関係が壊れるのが怖かったのだろう。

もし自分が主人公のような立場なら，自分も彼と同じ事をしたと思う。それは日本人が在日朝鮮人に対し差別の目を持っているからである。それはただ在日朝鮮人だけでなく，在日韓国人など在日とつく人々を差別している。だれもその人の事を知らないのに，ただ在日朝鮮人だと差別する。それはただ単に日本人が，無知で無教養と偏見により差別されているだけなのだ。生まれも育ちも日本で，日本人と変ることなく毎日を送っているのに，国籍が違う事により差別されるのは僕はおかしいと思う。

また主人公が彼女に自分は国籍は韓国なんだと言った。なぜ国籍が韓国かと言うと親父がただハワイへ行きたいがために朝鮮籍から韓国籍に変えただけである。まあこういうのはおいといて，主人公が言った言葉を聞いて彼女がいった言葉の中に，「韓国とか中国の人の血は汚いんだ」と言った文がある。これは本当なのだろうか。昔の日本には，中国から技術を日本に伝えてくる中国人な

どたくさんいた。そしてその中国人の中から，日本人と結ばれた子孫を残していった。ということは，今自分は日本人だと言っていても昔をたどれば中国人の血が入っていたとしたら，その日本人の血は汚いのだろうか。そしたらきっと日本人のほとんどが汚い血を持っていると僕は思う。

そして僕がこの本を読んで一番心に響いたのは，主人公の言葉で，

「俺は〈在日〉でも，韓国人でも，朝鮮人でも，モンゴロイドでもねぇんだ。俺を狭いところに押し込めるのはやめてくれ。俺は俺なんだ。いや，俺は俺であることを嫌なんだよ。俺は俺であることからも解放されたいんだ。俺は俺であることを忘れさせてくれるものを探して，どこにでも行ってやるぞ。」

と言う言葉だった。なぜかはわからないが，自分の中で，

「そうだ，その通りだ。何人なんて関係ない自分は自分なんだ。人にあーだこーだといわれ自分を閉じ込める必要ないんだ。自分は自分なのだから自分がおもうようにやって生きて行きたい」

と思った。そうは思っても世の中，やっていい事，いけない事があるがそれを守った中で思うぞんぶん生きていけばいいと思う。

この本を読んで，日本人が在日韓国人などに対する差別への考えや，その差別を受ける在日の人の思いや，差別する日本人に対する目の向けかたがわかったようなきがする。そして，主人公に言葉により俺は俺なんだ，もっと自分というものを持って，生きていきたいと思う。さらにもっと自分というものを探して生きたいと思う。

ボランティア
金子 郁容 著
－ボランティアから得る物－

機械工学科３年
石　丸　哲　也

まず感想に入る前になぜこの本を選んだかを説明すると，題名を見ると，ボランティアがもうひとつの情報化社会と書いてあり，意味不明だから少し興味を持ったことと，今僕はインターアクトクラブに入っており，ボランティアとは深く関係があるからです。

それでこの本を読んでみて僕自身の考え方がとても大きく変ったことがあります。それは，ボランティアというものは，一方的にこちらから何かをしてあげることだと思っていましたが，今はボランティアというのは，こちらから動き始めて何かをするのだけれども，一方的ではないということです。相手からは，お金では買えないお返しが来るということです。これらのことから，ボランティアはスポーツに似ているな，と思いました。プロは別だけど，普通の人は練習して試合に出て勝っても，お金はもらえません。では，なぜスポーツをするかといったら，勝った時の喜びをチームのみんなで一緒に味わいたいからだと思います。この勝ってもお金はもらえず，お金では買えない物をくれる所が，ボランティアとスポーツは本当に似ていると思います。

そして，この本を読んで，すごい心に残ったことがあります。それは，自分から動くことは難しい，ということと，自分から動かないと何も起こらないということです。ボランティアでもスポーツでも強制ではないので，自分から動くと，回りの人から，偽善だ，とか，スポーツばかりして家の手伝いは何もしない，とか批判されることもあるかもしれません。だからといって，自分から動かないとお金では買えないすばらしい物を得ることはできません。この難しい状況の中でも，僕は悔いを残さない為にも，積極的に自分から動いた方がいいと思います。

そこで，作者の体験談の中に，自分がボランティアとして動き始めると，いろいろな人が自分をボランティアとして支えてくれて，動き始めていた頃には考えてもないような，大きなことができたとありました。このことから，自分から動くことで，こういったいい事があるかもしれません。だから，動こうか動くまいかと迷っている時は，偽善だと言われるなどと，マイナス面を見ずに，前向きにプラス面を見て動けたら最高だと思います。もし自分が，動こうか動くまいか迷った時は少し難しいかもしれませんが，プラス面だけを見て，前向きに動こうと，この本を読んで思いました。

また，この本を読んで，作者の視野は広いと思いました。読んでいると，そんな考え方もあるのか，と驚くことが時々あり，ボランティアなどでたくさんのいろいろな経験を積んできているからかな，と思いました。

そして最後に，この本で使われている表現や言葉などで，難しいものが多く，読みにくかったけれども，とてもいいものが心に伝わりました。このことは，今すぐに役立たないかもしれませんが，いつか必ず役に立つと思います。本当にこの本を読んでよかったです。

「ボランティア
　　－もうひとつの情報化社会」
　　金子　郁容
　　（岩波新書）

随　想

図書について

環境都市工学科４年
前　川　仁　美

図書について自分の感想を書く前に，まず，呉高専の図書館についての感想を書いてみたいと思います。なぜなら，中学生の頃の私は，図書室はあったのにあまり利用せず，本に興味がありませんでした。だから私の中では，″図書＝呉高専の図書館″のイメージがあるからです。私が呉高専に入学し，初めて図書館に行ってみて，専門書の多さに驚きました。入学して４年が過ぎた今では，その専門書が私の強い味方になってくれています。１年生の頃は地理の宿題，３年生では創造演習，４年生になるとレポートのために，という風に私の学校生活の中で，図書館の存在がとても重要になっています。この４年間で今まで興味のなかった本というものがとても身近となり，今では自分のために本を買う様にもなりました。

本は私に，色々な物を与えてくれます。まず知識です。当たり前の事ですが，呉高専の図書館では，ある分野一つをとってもたくさんの本があり，又，一冊がぶ厚かったりするので，必要な情報を探すのは大変ですが，その探す間に他の知識も得る事ができ，結果として何倍もの知識を得る事ができています。又，自分が忘れていた感情や，思いもしない考えも得る事ができます。以前，図書館で絵本を見つけた事があります。木を植えた男の話だったのですが，懐かしくなり読んでみました。読み終えるまでに，自分が忘れていたすごく純粋で優しい思いを取り戻す事ができ，本の内容にもとても感動しました。

本は言葉という表現方法だけで，読む人の心を動かす事ができます。それは本当にすごい事だと思います。しかし，私が読む本の分野はまだ限られていると思います。今後は，自分の知識や考えをより大きく，そしてより高めていくためにも，得るものが多く，なおかつ身近にある本をもっと活用していきたいと思います。

私は馬鹿である

建築学科５年
石　川　晋　次

私は馬鹿である。成績は２年の頃からずっと30番台。留年も経験した。その事で自己嫌悪したことがないとは言えないが，自分を賢くないと思ったことはない。何故なら成績が良い者が賢いわけではなく，その一歩先にある，得た知識を自分の糧に出来ることが真に賢い者の条件だと思うからだ。

とは言え，私は勉強が出来ない分，出来る人より相当に得る知識が少ないと言える。しかしそれは教科書に書いてある知識に限っての話で，それを補うに十分な知識を他の事象から得てきた。「他の事象」の内容はここに書くに相応しくないので省略するが，どの事象にも当て嵌まる私の一筋の行為はよく考えることである。それは自分の行動の原因になる無意識の考えを意識して考えることであり，私はそういった自分の特性を図書を読むことで得たと思っている。ほんの21年間分でしかないが図書から読み取った思考が自分の中で脈々と流れているのを感じる。

得たことは文面からだけではない。以前学校の図書館で借りた図書の貸し出しリストに数学の岡中先生の名前があった。その図書の内容は筆者の学生時代の経験や思想を生々しく著したもので，凡そ数学とは懸け離れたものであり，私は衝撃を感じるほど驚いた。そこには数学の先生というだけでその行動や，果ては人生観をも極付けている稚拙な自分が確かに居て，その事が後に強烈に恥ずかしく思えた。

私は別に図書を読むことが好きなわけではない。読んでいる最中，読み終わった後に何かしら考えることが好きなのだ。そこから得るものがあることが嬉しいのだ。

ただし，これが馬鹿者の戯言であることと，今の私はこう思っているということを言い足しておく。

呉高専と都城高専の図書館

専攻科　建設工学１年
村　上　　幸

宮崎といえばどんなイメージを持たれるでしょうか。私は，宮崎県にある都城高専を卒業して呉高専専攻科に入学しました。宮崎は，日本の南に位置してる事もあって，年平均気温が高く，広島の夏でも肌寒いように感じました。

図書だよりということで呉高専と都城高専の図書館の違いを話したいと思います。入学して数日後に図書館の利用について説明を受けました。図書館に入館する前にいきなり驚いた事があります。それは，入館ゲートです。都城高専の図書館にはゲートというのはありません。盗難防止装置は付いているのですが，入館するために必要な手続きはいりません。誰でも自由に入れるようになっています。ゲートがあった方がよいと思うのですが，慣れていない私や初めて訪れる一般の方々にとっては，少し入りづらい所があると思います。図書館に入館して初めて思ったのは，都城高専の図書館に比べて狭いという事です。都城高専の図書館は，正確には一般の本や事典などが置いてある部屋・専門書の部屋・新聞や雑誌というように３つの部屋（閲覧室）があります。一般の本や事典などが置いてある部屋は試験前になると人がいっぱいになります。専門書が置いてある部屋には，本棚と本棚の間に何個かの椅子があり，何か調べる時には，その椅子に座って見ながら調べています。第２閲覧室と呼ばれる新聞や雑誌が置いてある部屋は広くて，勉強がしやすく雑誌など見るには良いのですが，この部屋だけクーラーがないのが欠点です。なので夏に行く人はあんまりいません。あと，様々な事などはたいして変わりません。本を借りる時は，学生証と本を窓口に提出すれば完了となります。あえて違う所といえば，誰でも５冊まで借りる事ができるという事です。

図書館の内観はそれぞれ違いますが，図書館は訪れる人々がくつろげて利用しやすい所であってほしいです。

留学生が紹介する外国の図書館

カンボジアの図書館

環境都市工学科３年
ロン　チャンター

図書館はどこの学校でも必要なものです。先生以外に図書館は本当に学生たちに大きな役に立ちます。いろいろな分野の本や教科書，新聞など，また，パソコンも図書館に集まっているので，学生，一般の人々はもっと知識を広げるにはそこで楽しめるでしょう。

私にとって図書館は面白くて大切なものです。だから，高校生のとき，だいたい好きな図書館に行きました。それはカンボジアのプノムペン大学にあるフンセンという図書館です。面積は呉高専の図書館の５倍ぐらいです。２階建てですが，１階はコンクリートだけですが広くて高いです。また，たくさんのベンチが並んでいます。２階は主な場所です。建物の前も後ろも大きな池があります。周りは静かだし空気も新鮮だし，だから大変いいところです。その図書館の中に入ったらすごく勉強したい感じがします。それはたぶん面積が広くて静かで学生が大勢いるからかもしれません。その中にはまた呉高専の図書館のサイズぐらいのところがあります。そこにはいっぱいいろいろな新聞や雑誌などがあって，パシフイクスフレンドという雑誌もあります。主なところはいろいろな分野の本や教科書があります。たとえば，文化，歴史，経済，科学，社会，農業などについての本がいっぱいきれいに棚に並んでいます。インタネットも使えますが，でもカードの必要があります。ビルの真ん中には学習のための机があり，学生がすわっています。その図書館に入るためにはかならず図書館のカードをスタッフにみせます。国内や，外国の人々も入られます。本も一回２冊10ドルで２週間までに借りることができ，返したときに10ドルを返してもらえます。ただです。最近は外国やNGOの援助で本はもっとふえています。そのため中学校や高校にある図書館に本を寄贈しています。その図書館はもっと大切です。

新任教職員の随想

読書のすすめ

機械工学科
上　寺　哲　也

お恥ずかしい話であるが，私は人にすすめることができるだけの読書量が今日までない。しかし本が嫌いなわけではなく，実際に実家の私の枕元には数冊の本や雑誌がいつも置いてある。それは雑学の本であったり，コンピュータ雑誌であったり，フィクションであったり，伝記のようなものであったりする。難しい本ではなく，とにかく読んでいて楽しい本ばかりである。一時期「難しい本を読んでみよう」と思い，難しそうな本を数冊買い込んだが，2,3ページで読むのをやめた。「難しいことを難しく」書いてある本は，読んでいても面白くない。やはり「難しいことを面白く」書いてある本がおもしろい。

本を読む事は工学系の私達にとっても，非常に大切な事であると思う。それは諸先輩方が言われている様に，専門的な書物を読んだり，自分の研究をまとめて発表したりする時に必要な「難しいことを簡単に理解する力」や「難しいことを簡単に説明する力」を養うためである。しかし，マンガに代表されるような「ただ面白いだけの本」を読んでいたのではこのような力は養われない。(マンガの中にも良いものはたくさんありますが,) 時には「字」だけで書かれた本を読む事も必要であると思う。

しかしいきなり「難しい本」を読む必要はない。読書嫌いな人は，自分の好きな事柄から読書を始めてみてはどうだろうか。例えばマンガやアニメは原作の小説から作られる事が多い。さらに近年では，マンガやアニメ・TVゲームで描かれたストーリーを小説化する事も盛んに行われている。スポーツ好きな人は，歴史物・伝記などもあるし，コンピュータが好きな人は，歴史・裏話等が書かれた本も多数出版されている。要するに「何でも良い」のだ。そのような読書を続けているうちに，他人から見れば「難しい」本であっても自分にとっては「難しいことを面白く」書いた本が見つかるのではないかと思うからだ。

私も「何も知らない高専教官」にならないように，さらなる読書に励みたい。

読書のすすめ

環境都市工学科
黒　川　岳　司

タイトルを間違えたかもしれない。「読書をすすめない」の方が適しているかもしれません。

読書が好きでない学生も多いと思います。私もそんな一人でした。本は読んだ方がいいと言われます。ひねくれ者の私は，読書という行為に対する義務感みたいなものが少々嫌でした。確かに，読書は知識を豊かにし，国語の能力も向上するかもしれない。だからといって，そんな理由だけでは本は読めない。"読みたい"から読むべきでしょう。青汁が体にいいからといって飲んでもやっぱりまずくて嫌になります。嫌いな本を無理して読む必要はないのでは。(教科書は別ですが・・・。) 幸い，本は青汁とは違い，いろんなジャンルがあり，作家も多い。世に出ている本は無数です。興味がわく本は必ずあります。ただし，読書になじめない人にとっては，"ハズレ"の方が圧倒的に多いのも事実です。推薦書や所謂名作も万人に受けるはずがありません。本に関しては偏食でいいと思います。惜しいことはおいしい本があるのに，その存在に気がつかないことでしょう。

私も研究に関する専門書以外はあまり本を読む方ではありません。しかし，時々本を読みたくなります。小学生の時は伝記物だけが好きで，中学では赤川次郎の小説や星新一のショートショートが密かなマイブームでした。失敗もあります。夏休みの宿題として読む文庫本に，迷わず最も薄い本を選択したことがあります。これは愚かな行為でした。本は薄さで選んではいけない，内容で選ばないと。その重い内容の短編小説は，学生時代の私にはつらいものでした。最近では，最も身近なひとが本好きなため，家に本がたくさんあります。そのひとが楽しそうに読んでいるので，それらの本に興味がわいてきます。読んでみると，確かに面白い。退屈な本も多いけれども。どうやら私にはエッセイが向いているようです。お気に入りの作家も増えてきました。

共感できる本，感性の合う作家は必ず存在します。私は無理に読書を勧めません。ただ，一刻も早くあなたのこころに響く本や作家に出会えることを願います。その後は読むなといっても読んでしまうはずです。とりあえず，図書館や書店の普段行かないコーナーに足を運んでみるといいでしょう。意外な発見がきっとあります。

在外研究員報告

外国の図書館紹介

環境都市工学科助教授　市坪　誠

南カリフォルニア大学（USC）は，合衆国ロサンジェルス市のダウンタウン（市中心部）にあります。このUSCは，市西部に位置するUCLA（カリフォルニア大学ロサンジェルス校）との間で学問・スポーツにおいて高いレベルで互いに競い合っています。

1880年設立の伝統校の構内は，木々が生い茂りレンガ造りの建物が建ち並んでいます。建物はクラシックとモダンが混在し，よく見ればレンガの種類及び積み方の一つ一つが建物により異なります。

ひときわモダンで巨大な建物，それが図書館です。1階には，コンピュータがおかれ，学生はインターネットを利用したり，本の検索をしています。ビデオデッキとモニターが置かれ，ヘッドホンをかけた学生達が映画を楽しんでいる姿を見ることも出来ます。2階は閲覧室で，読書するものから，パソコンを持ち込みレポートを書くものまで様々です。建物には誰でも自由に入ることが出来ます。

論文などが研究室のパソコンから簡単に入手できる研究環境にあって，図書館とは，専門性の追求の場というよりむしろ基礎学習（一般学生向け）の空間といえます。

▲ 南カリフォルニア大学図書館

▲ 南カリフォルニア大学建物

さて，構内の空気にも少し触れておきましょう。

USC構内のBookstoreに行くと，Tシャツ，帽子などといった大学グッズが所狭しと並んでいます。構内でこれらを身にまとう人や，市中で大学のステッカーやナンバーフレームを取り付けた車を見かけることが往々にしてあります。

人それぞれのアイデンティティーを重視するこの国は独自のバランス感覚があるといえます。

在校時の学生個々人の母校への愛校心と卒業時の卒業生としての誇りがこの学校を支えているのです。

個性あるレンガの一つ一つが建物や学校を形成するように，個人（個性）の表現のみに終始せず組織としての尊厳（誇り）も併せて見て取れることが重要と思います。

新着図書10選

プロジェクトX

NHKプロジェクトX制作班編　日本放送出版協会

♪風の中のすばるー♪。独特の中島みゆきの歌声「地上の星」ではじまるNHKテレビの人気番組『プロジェクトX』1～6巻が今回書物として刊行された。イチローや宇多田ヒカルなどキラリと輝くスターをとりあげるのではなく，私達のまわりで，ごく普通の生活をしている無名の人が主人公で，新幹線開通，富士山レーダー，黒四ダム，YS11の開発etc　どれをとりあげても，その背後に，これらの人の並々ならぬ努力があったことを思い知らせてくれる好著である。

（宇根　俊範記）

発光の物理

小林洋志著　朝倉書店

現在人のまわりは光で満ちあふれている。昼間に最も明るく輝く太陽光，夜空に煌く星々や月明かりは昔からの光。炎の明りから電気を利用した明りに形態変化。一方で，光は現代社会の情報伝達に不可欠となってきた。ところで，光はどのようにしてつくられるのだろうか。その問題に答えてくれるのが本書である。発光現象の物理，発光材料の物理，発光デバイスの物理が詳しく書かれています。

（山崎　　勉記）

現代人間工学

呉　景龍・塚本一義共著　森北出版

書名に現代とありますが，その意味は次のように説明されています。「機械化・オートメーション化社会」における人間の生体・生理量と機械の物理量との関係にもとづいて機械・システム・環境を設計・改善する人間工学を古典とよぶ。「コンピュータ・情報化社会」における人間の知的機能の実現，感情情報の効果的活用，人間とシステムの融合などの内容に関する研究が現代人間工学である。他の研究分野でも同じ道をたどっているのではないでしょうか。

（辻　　昭雄記）

C&Cエンサイクロペディア

セメント協会

C&Cとはセメントとコンクリートのこと，エンサイクロペディアとは百科事典である。

現在，コンクリートは建設材料の中でも主要なものであり，これらの問題点を解決することは社会基盤の信頼性向上において非常に有意義となる。

この本は事典と名の付くとおり項目ごとに列記され，教科書とはまた違った角度からサイエンスとテクノロジーに触れられる。

特に，材料学を学ぶ学生にとって良書といえる。

（市坪　　誠記）

組合せ最適化［短編集］

久保幹雄・松井知己著　浅倉書店

分岐点に立った時，「さてどの道を選択すればよいのか？」と困った事はありませんか。この問題はいたるところにあり，多くの人によりその解決法が提案された。これを参考に人生最良の選択をして下さい。代表的な問題では，オイラー閉路，中国郵便配達人，最短路，割当，クラス編成，ナップサック，スケジューリング，巡回セールスマン，メタヒューリスティック，最大クリーク，施設配置などが取り上げられている。

（山崎　　勉記）

十二番目の天使

オグ・マンディーノ著　求龍堂

テレビでイチローの活躍などを見ると，野球はアメリカの国技であると再認識させられる。この物語りはアメリカのリトルリーグを舞台に，人生，愛，勇気をテーマに語られている。妻子を交通事故で亡くした主人公のもとに少年野球の監督の依頼がき，そのチームに野球テクニックはからっきしのちっちゃな少年ティモシーが入ってくる。さて，その後は……。読んでのお楽しみです。後半は涙，涙で，読み終えた後は心さわやかになります。

（宇根　俊範記）

これだけは知っておきたい健康住宅の知識

健康住宅推進協議会編　鹿島出版会

結露・カビ・ダニ・ホルムアルデヒドなどに関する問題が発生している。高気密・高断熱住宅は北欧やカナダの寒い国で生まれたものだから日本の高温・多湿の気候にはうまくマッチしない部分も多く，作り方だけでなく居住者の住まい方の知識も必要です。本書は高気密・高断熱住宅システムを日本流に使いこなすために，住宅における健康被害，住まいの健康診断，健康な住まい方，住まいのメンテナンス，健康住宅のつくり方について説いている。

（藤井　　健記）

橋の造形学

杉山和雄著　朝倉書店

“橋を学ぶために建築学科へ入学したい？？”

橋は建築分野と思っている人って，意外と多い。環境都市工学科の人間としては，笑えないお話し。

昨今，確かに橋はデザインが要求される。環境都市工学科で学ぶ橋は，造形だけでなく，その土地の風土や歴史も加味し地域の誇りとなるよう計画・設計を行うべきとする。

この本は，橋梁設計を行う上で基礎となる造形を教授する良書である。

（市坪　　誠記）

アール・ヌーヴォーとアール・デコ
－甦る黄金時代－

千足伸行監修　小学館

19世紀末から20世紀初頭にかけて，ヨーロッパを中心におこった芸術様式あるいは芸術運動のうち，特にアール・ヌーヴォーとアール・デコに焦点を当て，建築だけでなく絵画や家具を含めた装飾工芸品などを幅広く紹介している。加えて，この時代の建築家及び芸術家の表現力の高さおよび様式への探求心の強さを十分，感じさせる内容となっている。カラー写真も多く，また写真の仕上がりもいいので見ているだけでも十分，楽しめる。

（岡本　二郎記）

まぜこぜを科学する

高木隆司著　裳華房

私たちが日常，混ぜるという行為はよくある。例えば，絵の具を水で薄める，ウイスキーを水で割る，液体洗剤を水で薄める，酢と醤油で二杯酢を作る，紅茶とミルクでミルクティーを作る，等々。普段あまり気にもしない混合に対して身近な現象から規則性を見いだし科学してみようというのが本書の意図であろう。特に鳴門の渦，パイの生地作り，有名な絵画などに着目し，混合の特徴を分かり易く解説しているので大変読みやすいと感じた。

（野村　高広記）

話題の本

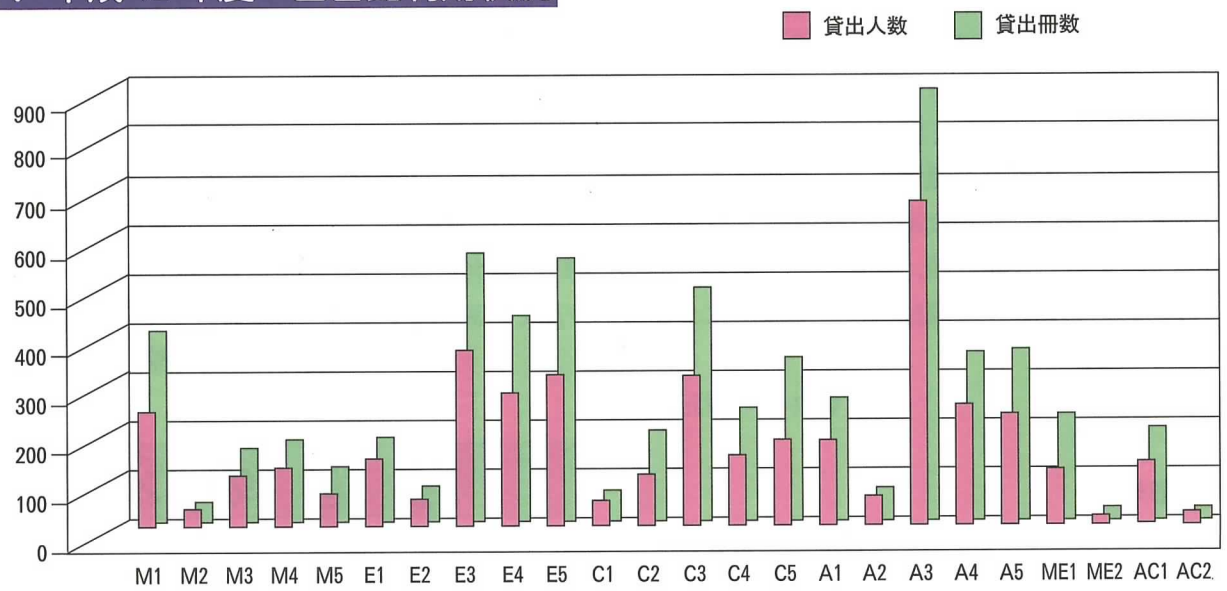
図書館には，専門書ばかりでなくベストセラーになった本もたくさんあります。まだ読んでいない方は図書館で借りて読んでみましょう。

※最近購入したもののリストです。

書　名	著　者	出版社
いつでも会える	菊田まりこ	学習研究社
チーズはどこへ消えた？	ジョンソン,S.	扶桑社
中坊公平・私の事件簿	中坊　公平	集英社
ブルーデイブック	グリーヴ	竹書房
竹中教授のみんなの経済学	竹中　平蔵	幻冬舎
十二番目の天使	オグ・マンディーノ	求龍堂
シーズザデイ	鈴木　光司	新潮社
スプートニクの恋人	村上　春樹	講談社
模倣犯　上下	宮部みゆき	小学館
バターはどこへ溶けた？	ダリオ・マリネッティ	道出版
ハリー・ポッターとアズカバンの囚人	J.K.ローリング	静山社
「自分の木」の下で	大江健三郎	朝日新聞社
プロジェクトXリーダーたちの言葉	プロジェクトX制作班	文芸春秋
R. P. G	宮部みゆき	集英社
空が落ちる　上下	シドニィ・シェルダン	アカデミー出版
話を聞かない男，地図が読めない女	アラン・ピーズ	主婦の友社
Go	金城　一紀	講談社

お　知　ら　せ

1．平成12年度　図書館利用状況



																					専機電		専建設	
学年学科	M1	M2	M3	M4	M5	E1	E2	E3	E4	E5	C1	C2	C3	C4	C5	A1	A2	A3	A4	A5	1	2	1	2
貸出人数	222	27	89	102	66	112	47	347	271	296	36	97	296	126	172	172	44	649	224	201	99	15	109	8
貸出冊数	390	38	144	163	102	177	70	524	405	530	53	171	481	222	327	241	66	887	335	349	205	24	188	13

2．冬季休業中の長期貸出について

以下のとおり長期貸出を行いますので，ご利用ください。貸出中の図書は，継続手続（1回だけ可）を行えば長期貸出の扱いとなります。

貸出期間：12月7日（金）～12月22日（土）　　**対　　象**：一般学生，卒研学生，専攻科生

貸出冊数：5冊　　**返却期限**：1月7日（月）

3．図書館ホームページについて

図書館ホームページ（URL　http://wwwlib.kure-nct.ac.jp/libhome.html）は毎月更新されています。是非一度お立ちより下さい。

・開館日程表　　・新着図書情報（図書館、研究室）　　・話題の本（随時更新）

又，「国立情報学研究所目次データ」には本校研究報告の目次を10年分登録しています。リンクをたどれば全国の高専，大学の出版物の目次を見ることができます。

編　集　後　記

世界的ベストセラーの『ハリー・ポッターと賢者の石』が映画化されました。既に御覧になった方も多いでしょう。原作を読まれた方はどのように感じたでしょう。本で読んだときと映画化されたものとで雰囲気が変わるのはよくあることです。松本清張の『砂の器』などは推理小説が，映画では人間ドラマに仕立て上げられ，当時「映画は原作を越えた」として大変評判になりました。最近では『マディソン郡の橋』も映画化されましたが，原作のイメージからくる登場人物と配役とが食違うと言って，あえて映画を見ない方もおられました。さあ，今回の場合はどうでしょうか。映画と原作を比べてみるのも面白いと思います。

（図書館長補　宇根　俊範）